

## 教祖のセクハラについて（その２）

by あっこ（2004年2月）

２ちゃんねるを通して言ってきたこと、また週刊ポストに書かれていたことが事実ですが、ここに自分でまとめることにしました。この手記がどこかの誰かの手助けとなることを願っています。

摂理の教祖であるチョンミョンソク氏は日本に来た際、「先生は忙しいから」と指導者に説明され私たちの前から姿を消した後も日本にとどまっていることが多々ありました。私のようにチアリーダーに所属していた人はたいてい関西の指導者であるHさんの家に呼ばれました。はじめて呼ばれたのは1999年7月。仕事中に彼女から直接携帯電話に電話が入り、一緒に住んでいる友人が入院したと嘘をつき会社を早退しました。その際決してHさんの家に行くことは誰にも言わないようにと彼女から口止めされました。

教祖はしばらく「チアに時間をだしてあげる」とチアリーダーだけを個室に呼び、なんかいろいろ話をしていました。その後「がんばっている人だけ個別に面談してあげる」と言い、私を含む3人が選ばれ、ひとりずつ部屋につれていかれました。Hさんが通訳してくれるかと思っていたのですが、彼女は部屋を出て行き、私は残されました。

教祖は片言の日本語と仕草で服を脱ぐように指示し、私はとにかく教祖と2人きりだという緊張感ばかりで言われるがままに服を脱いでしまいました。そこで上も下も触られ、キスされて部屋を出て行かされました。

扉のすぐ近くにHさんがいたので、今のことを話そうと思ったら「今あったことは絶対に誰にも言わないでね。今のは先生が健康をチェックしてくれたのよ。」と言いました。産婦人科医も触診するというし、ああそうなのかと思ってしまいました。私の後に呼ばれた友人ともその後話をしました。「私たちだけああやってみてもらえるのは祝福だね」みたいな話をしたのを覚えています。私はHさんの言いつけどおり、何があったのかは誰にも言わなかったし、その日教組に会っていたことも言いませんでした。

でも教会リーダーのMさんは知っていました。「よかったね。祝福だね」と言われました。それでかなりいい気分になっていたことは間違いありません。今考えるとおかしなことですが、そのときは自分が多くのメンバーの中から選ばれたんだ、みたいな優越感があったもの事実です。

その後カメラの使命があったこともあり、何か教祖が特別な集まりを開くたびに呼ばれました。2001年1月に教祖はまた来日しました。東京に行き、大阪に行き、それが

ら帰るとみんなには説明していましたが、きっとまだ日本のどこかにいるんだろうということは感づいてました。

そしてまたある日Hさんから携帯に電話が入り、至急千葉に来るようにと言われました。千葉のMさんの家に滞在しているらしく、日本巡回の写真をアルバムにしてわたしたいとのことでした。そこでたくさんの写真を持って千葉へ向かいました。東京の美術部のAさんという人がいました。教祖は千葉の家でくつろいでいました。千葉に着いたのが夜だったので、その日は徹夜の作業になりました。千葉の家の入ってすぐ左の女性部屋でひたすら作業を続けました。Aさんもしばらく起きていたのですが、途中で沈没され、Hさんも沈没されました。

明け方の5時くらいにMさんが入ってきて、「先生が呼んでいるからすぐに部屋に戻るように」と言いました。HさんやAさんが寝ていたので、報告できないままMさんと部屋に上がりました。Mさんは部屋に私を入れた後、いつかのHさんのようにすぐ去って行ってしまいました。その頃少し韓国語を勉強していたので、少し韓国語がわかりました。写真がんばっているね、とか言っていました。そしてまた服を脱ぐよう命じられ、きっとまた健康チェックかと思っていたんですが、気がついたらSEXしていました。とても拒絶できる状態ではなく、なんだか知らない間にといい感じです。

その後下に降りていったらまだHさんは眠っていたので、動揺しながらも作業を続けました。朝になってHさんにさっきのことを言おうかと思ったのですが、なんだか言うてしまうことが躊躇されました。言ったら摂理がなくなってしまうんじゃないかとか、大変なことになるんじゃないかという思いもありました。でもやっぱりこれは健康チェックじゃないし、やっぱり変だという思いが強かった気がします。しかし摂理の人たちはいい人たちだし、その頃は社会人のリーダーにもなっていて、ついてくる人たちをほっておけないという思いがあったり、とにかく複雑な思いでした。

その後のやめるまでの1年間はひたすら苦しかった気がします。摂理での仕事をこなしながらも「摂理は、教祖は偽者だ」という思いや、「何も知らずに摂理に身も心も捧げている人はどうなるんだ」とか、いろんな思いで摂理に残っていました。なぜすぐにやめなかったのかが不思議ですが、それほど摂理が私の生活の大半を占めていたから、いえ全てだったからだと思います。摂理を出ることがとても怖かった。教祖の行為よりもです。

2001年12月くらいになって私にも祝福式(合同結婚式)の話がきました。その場で「もっと成長したい」と断りましたが、このときから「摂理をやめるなら今しかない」と思い、2月に決意しました。

私がやめるときに、同じチアの子に言いました。彼女は「私も健康チェックを受けた。その後襲われそうになったけど、声を出して逃げた。今は教祖のことはメシヤだとは思っていない。御言葉がおもしろいからいるだけだ」と言いました。

またHさんにも言いに行きました。「教祖がこのような行為を行っていることを知っ

ているか」との問いには「今のあなたは疑ってつまずいている。そんな質問には答えられない」と言いました。「あなたのために祈る。1週間落ち着いて考えてみて」と涙を流して祈ってくれたけれども、肝心なことははぐらかされ、彼女の誠意を感じる事ができなかった。案の定、涙を流した次の日には、私と連絡をとらないようにといろいろな人に言ってまわられたみたいで、1週間どころか、次の日からメーリングリストを止められ、また私と連絡をとらないように言われたと後から摂理のメンバーに聞きました。とにかく被害を最小限に抑えようと考えたらしく、それから1週間の間、家には韓国留学に行っていた指導者が帰国し、泊り込みで私を監視していました。

教祖のセクハラについて言えることはこれくらいですが、摂理をやめようと考えている人は、この文章を読んで、じゃあやめようというのではなく、できれば摂理をもっと深く知ろうとしてほしいと思います。信じろといわれて信じてしまう性格がいつまでたってもなおらないからです。

この文章をきっかけに様々なことを検証し、摂理のどこがいけないのかというところを各自が見出してもらいたいと切に願っています。